

中央教育審議会個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた学校教育の在り方に関する特別部会に、今後の高等学校のあるべき姿（グランドデザイン）を検討する高等学校教育の在り方ワーキンググループを設置。

検討の背景

- 高校進学率が99%に達し、高校生の多様化が更に進み、高校の在り方も極めて多様になっている中で、成人年齢は18歳に引き下げられた。
- 義務教育における不登校の大幅かつ継続的な増加。一方で高校生の不登校、中退率は減少しているが、私立広域通信制を中心とした通信制高校の在籍者は大幅に増加。
- 近年の出生数減少により、15歳人口の更なる減少が確定しており、その後も更に出生数は減少することが予想される。現状でも、生徒数の減少により過疎・中山間地域・離島等を中心に高校の存続が困難となっているが、今後は更に、全国各地で高校の維持が極めて困難となることが予想される。
- 高校教育段階での学びの満足度の低下や、18歳の自己肯定感等が国際比較で非常に低いといった課題を打破するとともに、Society5.0、DX等の社会構造の変化を踏まえ、予測不可能な時代の中で求められる人材育成（社会課題解決、探究・STEAM教育、グローバル、文理横断等）への対応が必要。

検討事項

- ① 高等学校教育の在り方について（「共通性」と「多様性」の観点からの検討）
- ② 少子化が加速する地域における高等学校教育の在り方について
- ③ 全日制課程・定時制課程・通信制課程の望ましい在り方について
- ④ 社会に開かれた教育課程の実現、探究・文理横断・実践的な学びの推進について
- ⑤ その他

中間まとめはこちらから
ご覧いただけます。→



委員

【氏名】	【職名】	五十音順、◎：主査、○：主査代理 (計15名)
青木 栄一	東北大学大学院教育学研究科教授	
◎荒瀬 克己	独立行政法人教職員支援機構理事長	
石崎 規生	東京都立桜修館中等教育学校長、全国高等学校長協会会長	
今村 久美	認定 NPO 法人カタリバ代表理事	
岩本 悠	一般財団法人地域・教育魅力化プラットフォーム代表理事、 島根県教育魅力化特命官	
岡本 尚也	東京大学先端科学技術研究センター客員上級研究員、 一般社団法人Glocal Academy代表理事	
沖山 栄一	東京都立世田谷泉高等学校長	
鍛冶田千文	YMCA学院高等学校校長、学校法人大阪YMCA理事	
塩瀬 隆之	京都大学総合博物館研究部情報発信系准教授	
篠原 朋子	前学校法人NHK学園理事長	
清水 雅己	学校法人九里学園学園本部企画運営課参事、 前埼玉県立大宮工業高等学校長	
○田村 知子	大阪教育大学連合教職実践研究科教授	
富塚 昌子	千葉県教育委員会教育長	
長塚 篤夫	順天中学校・高等学校長、日本私立中学高等学校連合会常任理事	
濱田久美子	高知県香美市教育委員会生涯学習振興課推進官、 元高知県立山田高等学校長	